

# KYOKUYO の DX 戦略

## ●トップメッセージ

旭陽電気株式会社は、「電気を繋ぐ技術とものづくりで、社会の進歩を支える。」をミッションとし、社会の進歩を開発・生産するお客様を支える万能コネクターカンパニーです。

持続可能なオペレーションを追求し、製造・サービスに新たな価値創造を行い、事業活動を通じて社会課題の解決を目指していきます。

当社は、経営戦略の重要な事業施策として、「DX化」を掲げています。社会環境が変化するなかで社会や市場のニーズを先取りし、製造現場というフィールドで実践し、お客様にも提案していく姿勢が大切だと考えています。

AI、Iot、自動化、アプリケーション、ロボティクスなど、デジタル技術を活用し、経営戦略の一環としてDX推進を強化します。当社の製造事業、社会インフラ事業におけるDX、さまざまな業務プロセスにおけるDX、DX人材の育成、システム基盤・情報セキュリティの強化などをDX戦略に基づき、更なる業務効率化に向けて、取組みます。

旭陽電気株式会社  
代表取締役 金山 光雄

## ●KYOKUYO の DX 戦略

当社の経営戦略では、企業理念とCSR方針に基づきながら、以下のマテリアリティ（重要課題）を特定しています。このマテリアリティを解決するための事業施策にDX化が含まれます。このため、KYOKUYOのDX戦略の目的は、大きく次の2点の重点テーマに絞られます。

マテリアリティ	重点テーマ	事業施策
①経営基盤 Environment	環境マネジメント	グリーン化、省エネ、CO2削減
	業務効率化	DX化、ムダの排除
②人と職場 Social	Inside Social Well-being（幸せ）プロジェクト 「WELL LABO」	心と身体の健康経営、キャリア形成 ダイバーシティ・インクルージョン ワーク・ライフ・バランス
	Outside Social 社会貢献活動	フードバンク、教育機関等への支援
③生産性向上 ROE Governance	サプライチェーン強靱化	DX化、新工場増築、生産体制強化
	安全とセキュリティ	安全衛生連絡会議、情報セキュリティ
	リスクマネジメント	コンプライアンス、法令順守

### 【DX戦略の目的】

#### ① 業務効率化のためのDX化

DX化により、作業の無駄を省く、作業工数が見える化することで問題の抽出を行い、業務を

効率化することを目的に取り組めます。DX 効率化には、環境に対する視点も持って取り組めます。

## ② サプライチェーン強靱化のための DX 化

システム基盤・情報セキュリティの強化や、お客様、協力会社との情報のやり取り、従業員の管理などを DX 化することにより安全に柔軟な生産体制を構築することができます。

### ●DX 戦略の取組み

#### ①業務効率化のための DX 化

- ・作業工程のデジタル管理アプリケーションの開発
- ・作業工程のペーパーレス化
- ・カメラによる外観検査システム開発
- ・資材管理システムの開発

#### ②サプライチェーン強靱化のための DX 化

- ・人材育成のための教育システムの開発
- ・新サーバー導入によるシステム基盤・情報セキュリティの強化
- ・顔認証による入退管理
- ・新たな勤怠システムの導入
- ・新たな賃金システムの導入

\*それぞれの取組みは、KPI が設定され定期的レビューの実施により分析、把握、改善、マネジメントを継続していく。

### ●DX 戦略チームの結成と DX 人材育成について

当社の DX 戦略は、各部署を横断して結成した DX チームを中心に実施します。DX チームは、経営層の直下に位置付けし、スピード感のある DX 戦略の推進が可能となります。また、DX チームでは、各部署が抱える無駄の調査を行い、「すぐに取り組める課題」、「近い将来取り組める課題」、「長い視点で取り組む課題」に分けて、DX 化に取り組めます。

DX チームは、社内の人材の中から選抜します。DX チームは、教育と実践を通して、成長していくので、社内の DX 人材の育成が進みます。